

地震!! そのとき、あなたはどうする!?

～外出編～

(震災対策指導室)

地震はいつ、どこで発生するかわかりません。あなたは、地震が発生したとき落ち着いて適切な行動がとれますか。自分の家なら大丈夫だと自信を持っている人でも、それが外出先だったらどうでしょう。平素とは違う危険があなたを襲ってきます。

パニック等で心理的に冷静さを欠いたとき、すばやい行動はとても難しいものです。自分の身を守り、正確な情報による適切な行動をとるように心がけましょう。

また、行楽シーズンを迎えるに当たり、観光地等の土地に不案内なところで地震にあった場合の適切な行動を普段から考えておきましょう。

1. 密集した市街地にいるとき

屋根瓦や屋外広告物の落下に注意

屋根瓦、窓ガラス、屋外広告物などが落下してくるおそれがあります。持ち物などで頭部を保護しましょう。

建物やブロック塀に近づかない

また、ブロック塀などの倒れそうなものや垂れ下がった電線から遠ざかり、大通りでは車に十分注意をして、できる限り道の中央を通るようにしましょう。

公園や広場に避難

近くに大きな公園や広場などがあるときは、一時的にそこに避難して様子を見ることもよいでしょう。

2. ビル街にいるとき

ガラスの破片や屋外広告物のそばは危険

ガラスの破片、外壁のタイルやレンガ、屋外広告物が落下してくるおそれがあります。持ち物などで頭部を保護しましょう。

近くに強固な耐火ビルがあるときは、一時的な避難場所として、その中に避難して様子を見ることもよいでしょう。

3. 劇場、デパート等にいるとき

落下、転倒物の危険

劇場などでは、天井に吊り下げられている物が落下してくるおそれがあります。持ち物などで頭部を保護し落下物から危険を防ぎましょう。

将棋倒しの恐れあり、誘導員の指示に従って

デパートやスーパーなどでは、ガラスケース、陳列棚及び吊り下げ物などから離れましょう。ホテル等では、ドアを開放して逃げ道を確保しておきましょう。いずれの場合もあわてて出口や階段に殺到せずに、事業所の責任者の誘導や指示に従って避難しましょう。

停電してもあわてずに、エレベーターは使わずに

また、エレベーターは停電等により途中で止まったり、閉じこめられるおそれがあるので、エレベーターによる避難はやめましょう。エレベーターに乗っているときに地震があったら、各階のボタンをすべて押し、最寄りの階で降りて、誘導灯に従い階段を使って避難しましょう。

4. 車を運転しているとき

急ブレーキはかけないで

運転中に地震を感じたら、あわてて急停車することなく、ハンドルを取られないようにしっかりと握り、徐々に速度を落とし、消火栓等をさけて道路の左側に停車して様子を見ましょう。ラジオ等で交通、火災、津波などの情報を聞くことも大切です。

緊急車両の通り道をあけておく

緊急車両が通行できるよう道路の左側に停車し、エンジンを止めましょう。また、トンネルの入り口や交差点には停車しないようにしましょう。

車のキーはつけたまま

やむを得ず自動車を置いて避難する場合は、火災を引き込まないように窓を閉め、キーをつけたままドアをロックせずに避難しましょう。

5. 電車・地下鉄・バスに乗っているとき

吊革や手すりにしっかりつかまり、姿勢は低く

電車や地下鉄は、地震の時には安全装置が働いて停車するようになっています。地盤の弱いところでは、線路の沈下や変形により脱線・横転するおそれもあります。吊革や手すりにしっかりつかまり身を守りましょう。

乗務員の指示に従って

列車が停車したからといって、むやみに外に飛び出すと反対側の電車にはねられたり、垂れ下がった架線等で感電する危険もあるので乗務員の指示に従って避難しましょう。

6. 地下街にいるとき

地下街は比較的安全、停電してもあわてずに

地下街は、耐震性が高いので、あわてることはありません。一時的に停電になっても誘導灯や非常用照明装置が点いているので、あわてて出入口に殺到しないで、警備員や従業員の誘導に従って避難しましょう。

7. 観光地等土地に不案内な場所にいるとき

防災行政無線等による避難指示の放送などに従って

観光地等の土地に不案内な場所にいるときは、デマ等に惑わされることなく、防災行政

無線等による避難指示放送等に従い、適切な行動をとるようにしましょう。

8. 海岸やウォーターフロントにいるとき

すぐさま逃げる

海岸やウォーターフロントにいるときは震源に近いところでは津波情報が出る前に津波がくる恐れがあります。その場合、海岸では、高台に逃げましょう。高台がないところではできる限り海から離れましょう。

9. 川や丘陵地にいるとき

逃げる時は、高台に

川にいるときには、上流にダムがある場合、ダムが壊れる場合があります。その時には、上流や下流に逃げず、川と直角の高台に逃げましょう。また、河口付近にいる場合も、すぐ高台に避難しましょう。

がけ崩れから逃げる

地鳴りがしたら、すぐ高台へ逃げましょう。間に合わない時は、土砂をかぶらないよう大きな木の下に隠れるなどが必要です。

命を守る10のポイント

- グラツときたら、身の安全
- すばやい消火、火の始末
- 避難は徒歩で、持ち物は最小限
- 壁ぎわ、がけや川べりに近かづかない
- 正しい情報、確かな行動
- 協力し合って救出・救護
- 防災訓練に積極的に参加
- 家族会議で話し合い
- 家具転倒防止など安全スペースの確保
- 非常持ち出し品の準備

第47回文化財防火デーの消防訓練

(予 防 課)

国民共通の貴重な財産である文化財を火災等の災害から保護し、文化財愛護思想の普及高揚を図ることを目的として、去る1月26日の文化

財防火デーを中心に、全国各地で消防関係者、文化財関係者、教育関係者及び地域住民の協力の下に消防訓練等が実施されました。

1 平成13年1月25日(木) 10時00分から
訓練実施場所：護国寺（東京都文京区）
視 察 者：中川浩明消防庁長官
銭屋眞美文化庁次長

2 平成13年1月26日(金) 10時00分から
訓練実施場所：熊本城（熊本県熊本市）
視 察 者：中川浩明消防庁長官
長谷川裕恭文化庁文化財部長



護国寺における文化財消防訓練（東京消防庁提供）



熊本城における文化財消防訓練（熊本市消防局提供）

第4回消防防災研究講演会の開催

(消防研究所)

消防研究所では、去る1月26日(金)、当研究所情報管理棟大会議室において「第4回消防防災研究講演会」を開催し、消防機関、民間企業等から約60名の参加をいただきました。

「市街地火災における空中消火技術」をテーマとする今回の講演会では、防衛庁、東京消防庁等の協力により実際にヘリコプターを用いて

行った実験の結果等これまでの研究成果を踏まえ、市街地火災における空中消火の技術、有効性、問題点等について、当研究所研究員のほか、防衛庁、東京消防庁等からの招待講師による研究発表を行った後、参加者も含めて活発な討論を行いました。



全国消防防災主管課長会議の開催

(総務課)

去る1月29日(月)13時から総務省講堂において、都道府県、政令指定都市及び中核市の担当課長等約150人が出席し、全国消防防災主管課長会議が開催されました。

会議では、中川浩明消防庁長官の挨拶に続き、消防庁各課室長等から、「平成13年度消防庁予

算額(案)をはじめ、「消防団の充実強化」、「今後の住宅防火対策の推進」、「災害に強い安全なまちづくり」、「救急業務の高度化の推進」など、消防防災行政の当面する諸課題等についての説明等が行われました。



挨拶する中川浩明消防庁長官



平成12年度優良消防防災機器開発・科学論文表彰式の開催

(消防研究所)

消防庁では、消防防災に関する科学技術の高度化及び消防防災活動の活性化に寄与することを目的として、消防職員を含め広く一般から、消防防災機器の開発・改良及び消防防災科学に関する論文の募集を行い、その中から優秀な作

品を消防庁長官が表彰する「消防防災機器の開発等及び消防防災科学論文の表彰」を平成9年度から実施しています。

この表彰式を下記のとおり開催します。

記

1. 開催日時

平成13年3月13日(火) 15時～16時

2. 開催場所

総務省第1・2会議室（東京都千代田区霞が関2-1-2）

3. 表彰の対象

- (1) 消防防災機器の開発・改良
消防防災活動において使用する機器の開発または改良で、創意工夫に富んだもの
- (2) 消防防災科学に関する論文
消防防災活動における問題点を技術的な観点から解決あるいは考察した論文で、消防防災活動分野で活用が期待できるもの

4. 表彰の種類

- (1) 優秀賞
消防防災機器の開発・改良（10点以内）
消防防災科学に関する論文（10点以内）
- (2) 奨励賞
消防防災機器の開発・改良及び消防防災科学に関する論文（2点以内）

5. 内 容

- (1) 消防庁長官式辞
- (2) 表彰状及び副賞の授与
- (3) 表彰選考委員会委員長講評
- (4) 記念撮影

第5回防災まちづくり大賞表彰式の開催

(防 災 課)

地域の防災力の向上を図るためには、防災に直結する事業の実施に加え、まちづくりや住民生活等のあらゆる面において防災に関する視点を盛り込むなどハード、ソフトの両面から防災に気を配ったまちづくりをすすめることが大切です。

このため、平成8年度から消防庁及び(財)消防科学総合センターの主催により、地方公共団体

や地域のコミュニティ、事業者等が行っている防災に関する様々な取組、工夫・アイデアのうち、特に優れたものを表彰する「防災まちづくり大賞」を実施しています。(平成11年度からは、日本放送協会、(社)日本民間放送連盟、(社)日本新聞協会後援)。

この表彰式を下記のとおり開催します。

記

1. 開催日時

平成13年3月15日(木) 11時30分～12時

2. 開催場所

東條会館(東京都千代田区麴町1-4)

3. 表彰の対象

都道府県、市町村(広域連合及び一部事務組合を含む)、消防団、自主防災組織、婦人防火クラブ、少年・幼年消防クラブ、事業所の防災組織、ボランティア団体、NPO等の各種団体

4. 表彰分類

(1) 防災ものづくり

防災センターなど防災関係の施設整備、道路や公園、建築物、植樹等における防災面での配慮など、ハード面を中心とする「防災まちづくり」の取組。

(2) 防災ことづくり

防災意識の高揚・啓発や防災マップの作成、自主防災活動など、地域におけるソフト面を中心とする防災に関する取組。

(3) 防災ひとづくり

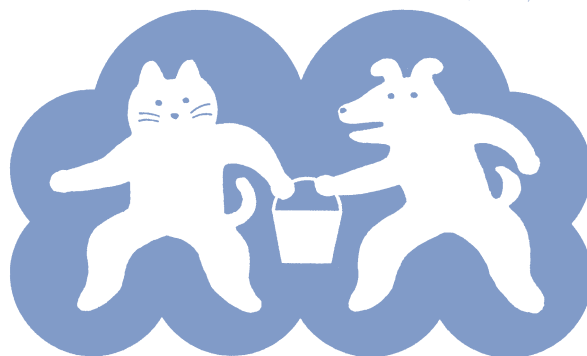
防災の決め手は「人」である。人々の災害対応能力を高めるための実践的な教育訓練、講座・研修などの取組。

5. 表彰の種類及び表彰事例数 (10事例程度)

- ・総務大臣賞 (2事例程度)
- ・消防庁長官賞 (3事例程度)
- ・消防科学総合センター理事長賞 (5事例程度)

6. 内 容

- (1) 総務大臣挨拶
- (2) 表彰状、記念品等の授与
- (3) 受賞団体代表謝辞
- (4) 記念写真撮影



防災まちづくり大賞
(和田 誠 氏 デザイン)

少年消防クラブフレンドシップ 2001 の開催

(防 災 課)

「少年消防クラブフレンドシップ 2001」を、
全国少年消防クラブ運営指導協議会の主催により
下記のとおり開催します。

このフレンドシップ 2001 は、少年消防クラ
ブの育成発展に寄与することを目的として、優

良少年消防クラブ及び指導者の表彰を行うと
ともに、少年消防クラブ員の交流を通じて、その
活動の一層の活性化を図ることを目的とするも
のです。

記

1. 開催日時

平成13年 3月27日(火) 10時30分～12時30分

2. 開催場所

ニッショーホール (東京都港区虎ノ門 2-9-16)

3. 参加対象

- ・特に優良なクラブ
- ・優良なクラブ
- ・優良少年消防クラブ指導者等

4. 内 容

《第一部》優良少年クラブ及び指導者の表彰

- | | |
|------------|--|
| (1) 主催者挨拶 | ・消防庁長官 |
| (2) 表彰 | ・特に優良な少年消防クラブ
・優良な少年消防クラブ
・優良な少年消防クラブ指導者 |
| (3) お祝いの言葉 | ・(財)日本防火協会会長
・全国消防長会会長 |
| (4) 代表者の言葉 | ・受賞クラブ代表 |

《第二部》アトラクション

少年消防クラブとは

少年消防クラブは、10歳から15歳までの少年・少女により編成されており、少年期から防火・防災についての知識等を身近な生活の中に見い出すとともに、日頃から研究発表会、ポスター等の作成、実地見学等の活動を行っています。

昭和25年の発足以来、少年・少女たちに将来の地域防災リーダーとなってもらうため、あくまで純粋な社会教育クラブとして活動が続けられており現在(平成12年5月1日)全国に6,194団体、約49万人のクラブ員がいます。

2月の広報テーマ

春季全国火災予防運動

林野での火気の手配の注意

ふるさとを災害から守るための消防団活動への参加の呼びかけ

住宅防火対策の推進＜高齢者の安全対策＞

たばこによる火災の防止

☆テレビによる防災キャンペーン（3月分）☆

ご存じですか ～防災ミニ百科～		
放送日	主管課	テーマ
3月15日(木) (午前11:25～11:30)	防災課	(仮) 山火事を防ぐ

(日本テレビ他30局ネット)

編集発行 消防庁総務課

〒100-8927 東京都千代田区霞が関2丁目1番2号

TEL 03 (5253) 5111

消防庁ホームページ

<http://www.fdma.go.jp>
